

青山キリスト教学生会 (Aoyama Christian Fellowship) 活動報告

担当チャプレン：塩谷直也、高砂民宣、吉岡康子、八木隆之

青山キリスト教学生会（以下ACF）は、青山学院大学宗教センターに所属する4つの学生団体の1つであり、本学の全学部生に開かれたキリスト教活動を行う団体である。他の3団体が音楽活動を中心とするのに対し、ACFはキリスト教の信仰を中心とした活動を展開し、本学の建学の精神を具体的に体现している。1982年に制定された規約では、「会員の信仰と親睦を深めること」「有意義な学生生活を実現すること」「本学の宣教活動に協力すること」の3点が目的として掲げられている。

定期活動として、現在青山キャンパスでは毎週金曜日に「じょいふる」、相模原キャンパスでは毎週木曜日の「めぐみタイム」と月曜昼休みの「チャペラン」を実施している。主な活動メニューとしては、聖書研究の「バイブルクラス」、悩みを共有する「すもふえ」、チャプレンの講演を通じた学びの「ちゃぷすた」などがある。2024年度には会員数が105名に達し、青山では約50名、相模原では約25名がそれぞれ定期活動に集っている。また、青山祭や相模原祭ではコンサートや教室企画を通じて福音を分かち合い、大学礼拝では賛美と証詞を通して積極的な宣教活動を行っている。

ACFの歴史を振り返るとその経緯は次のようであった（ACFウェブサイトを参照）。1960年代の学生紛争後、キリスト教の異端やカルト宗教が学内に侵入し、影響を与えることが懸念された。そうした影響を押さえるために、学生主体のキリスト教活動は一旦禁止されることになったのである。しかしその後、1970年代の後半になって、当時大学が主催していたクリスチャン・キャンプに参加した学生たちの中から、キリスト教のサークルを作りたいという要望が出た。この熱望を聞き入れ、宗教センター管轄のもと、宗教主任をチャプレンに置き、その監督と指導のもとで1976年にACFの活動は始まった。このような設立の経緯を踏まえると、近年では学生の主体性を尊重し、支援する方向へ進んでいると言えるだろう。しかし、設立当初の思いや使命を継承して行くために、「ACF規約」を作成し、再び混乱に乗じて誤った道を進まないよう、チャプレンによる指導が行われている。

スクーンメーカー記念館（旧短大図書館棟）の3階には、宗教センター所属4団体の資料が保存されている。書庫の中を調べてみると、1976年の夏に発行された『ACF会報』の創刊号を見つけることができた（写真①）。当時はまだワードプロセッサーも



写真①



写真②

普及していない時代であったため、有志の学生たちによって作成された全て手書きの味わい深い文集のようなものである（写真②）。頁を開いて見ると、最初の顧問を務めた井上義巳先生による「青山の良心」を目指して」という巻頭言が掲載されていた。その中に、「現在、極めて非宗教的、又は反宗教的風潮が世に満ちています。この大学の中も、その例外ではないようです。ACFはこの風潮にチャレンジして行く任務を本来的に持っていると考えます。大いに意欲を燃やして進みましょう」と記されていた。ACF発足当初の気概を感じる。また、頁をめくると、発足当初の活動の様子を知ることができる。新しい年度が始まった4月には、レコードによる宗教音楽鑑賞を始め、鎌倉への新入生歓迎ハイキング、5月には三浦綾子作『塩狩峠』の映画鑑賞などを開催して、会員募集に努めている。5月24日（J・ウェスレーの回心記念日！）から週間活動が正式に実施され、ウェスレーホールを会場に昼休みの12：30から13：10まで、チャプレンによる聖書講解を始め、聖書輪読会、レコード・コンサート、「讃美歌を歌う会」への参加など、毎日の平均出席者数は10名とのことである。また、夏休みに入るとすぐに開催されていた「清里サマーカレッジ」の前身とも言える宗教センター主催の「夏期学校」への積極的な参加が呼び掛けられていたり、夏休みの終わりに近い9月の中旬には、一泊二日でACFの修養会が行われている。「学生生活を楽しく有意義に Be ambitious in Christ!」と記されたチラシ作成を外部の印刷業者に発注する等、会員の募集にも努めている（写真③）。

こうしてスタートしたACFも、2026年には創立50周年を迎える。2024年度には会員数が105名に達するまでに成長したことは感謝なことである（写真④）。しかし規模の拡大に伴い、役員への負担集中や活動への参加に偏りが生じるといった課題が見られ

る。これを解決するため、会員の参加を促し役割分担を行うワーキンググループ制度や支部運営委員制度が導入された。ワーキンググループには、賛美奉仕や音響を担当する「キングダムプレイズ（KP）」と広報を担当する「コンテンツグループ」があり、それぞれのメンバーが活動を支えている。支部運営委員制度は、青山支部長と会員から選出された支部運営委員により青山支部活動を運営する仕組みであり、他の役員が本来の役割に集中できるよう工夫されている。さらに、会員数の増加により重要性が増している夏合宿（9月）や冬合宿（2月）は、交わりを深め、一体感を感じる機会となっている。

ACFが今後も、聖書を基盤に学生の信仰の成長を促す場として、その使命を果たし続けることを願っている。



写真③



写真④ 青山祭の教室出店での集合写真（2024年11月）